

「邂逅の楽しみ」

今年の夏は酷暑に閉口しましたが、それだけでは終わらず豪雨、台風、地震といった自然災害によって各地で大きな被害が発生しました。直接・間接を問わず、被害に遭われた方々にお見舞い申しあげます。

さて、4月の総会以降、出来るだけ会員の皆さんとの交流を深めるために各支部の活動に参加しようと考えています。8月3日には新しいアイビーエムの中之島オフィスで開催された関西支部の幹事会に出席し、梅田での納涼会に出席。8月20日には草津で開催された野洲支部の納涼会に参加しました。

各会では、懐かしい仲間だけではなく、初めてお目にかかる方も沢山居られ、40年近く勤務していても日本アイビーエムという巨大組織では、ほんの一部の人としか直接仕事をしていないということをいまさらながらに痛感します。それでも、ワイワイと会話をしていると、あつと言う間に時間は経過し、職種、事業所、在職した時期が違っても日本アイビーエムに籍を置いたという共通項でこうした仲間意識が醸成されるというのも素晴らしいことです。

一方、古巣はどうなっているのかを知るためのイベントとして、8月2日に開催されたファミリーデーに親鴨会として箱崎本社を訪問しました。現役社員の家族に対するオープンオフィスが本来の目的ですので、社員のご家族、特にお子さんたちが沢山参加されていました。最新の技術を説明するデモンストレーション等を聞きながら、その進化に驚きつつ、展示されているパンチカード穿孔機(29/59)の前に立てば、お客様から初めていただいた契約書が 29/59 だったことを思い出します。また、現社長のエリー・キーナンさんがロビーでお出迎え、マネージメントの諸氏も積極的に社員の家族に対応している姿を見ると、社員の家族にも会社や仕事を理解して欲しいというアイビーエムの文化が変わらず続いていることが良く判ります。

関西支部の納涼会では、新入社員研修で同じクラスだったという女性が出席されました。「内池君、誰だか判る?」との質問を受けるものの、48年間の時を瞬時に巻き戻すことは難しく、研修中のエピソードなどを語り合うことであの頃の記憶を呼び起こしつつ、趣味や今の生活を語り合い会話に花が咲きます。

こうした「邂逅」は、忘れていた記憶を仲間の助けを借りて掘り起こし、自分自身の「過去と今と未来」を結ぶ大切な時間のようです。